

令和6年11月26日  
(2024年)

保護者の皆様へ

吹田市立東佐井寺小学校  
校長 池上 かずえ

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度の4月、本校では6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を、吹田市のホームページを通じて公表しております。

なお、この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として、課題に応じた学力向上につながる指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただければと存じます。

### 1 教科に関する調査の分析

◆国語 全国値をやや上回る結果でした。

《各領域における成果と課題》

**話すこと・聞くこと** 全国値をやや上回る結果でした。

- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」ことは、よくできていました。
- 「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」ことに、課題が見られました。

**書くこと** 全国値をやや下回る結果でした。

- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに、課題が見られました。

**読むこと** 全国値とほぼ同じ結果でした。

- 「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」ことは、できていました。
- 「物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」ことはできていましたが、「人物像を具体的に想像する」ことに課題が見られました。

**伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項**

- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことは、できていました。

## ◆国語科における成果・課題と今後の改善点について

本校では、「子どもの主体的な学びのある授業づくり」をテーマに、物語文教材の学習（令和5年度）、今年度は説明文教材の学習（令和6年度）の研究を進めてきました。その結果、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」ことや、「物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」という、読みの力が継続的に育まれていると考えられます。また、漢字については、学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができています。

しかし、「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」や、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」というような、話し方や書き方（表現）を工夫するという点では、課題が見られました。

これらのことから、本校では引き続き読む力の伸長を図るとともに、工夫して表現する力を育むために、国語だけではなく各教科において、「話したり書いたりする活動」を積極的に取り入れていきます。また、その活動において、事実が考えを裏付けるものになっているかしっかり確認する取り組みや、児童が互いの文章を読み合って書き方を見直すような協働的な学習を行い、児童が主体的に学びを進められるようにしていきます。

## ◆算数 全国値を上回る結果でした

### 《各領域における成果と課題》

#### 数と計算 全国値を上回る結果でした。

- 「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」ことや、「示された情報を基に表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する」ことは、よくできていました。
- 「問題場面の数量の関係を捉え、式に表す」ことに、課題が見られました。

#### 図形 全国値を上回る結果でした。

- 「直方体の見取図について理解し、かく」ことは、よくできていました。
- 「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す」ことは、全国値を上回る結果でした。しかし、正答率は低い結果となりました。
- 「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する」ことは、よくできていました。

#### 変化と関係 全国値をやや下回る結果でした。

- 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」ことは、よくできていました。

- 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」ことは、全国値を上回る結果でした。しかし、正答率は低い結果となりました。
- 「速さの意味について理解している」ことに、課題が見られました。

### データの活用 全国値を上回る結果でした。

- 「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」ことは、よくできていました。
- 「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する」ことは、よくできていました。
- 「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する」ことは、よくできていました。
- 「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する」ことは、よくできていました。

## ◆算数科における成果・課題と今後の改善点について

今年度は、本校では少人数指導を行ってはいませんが、これまでの少人数指導担当を中心とした取り組み（身近な場面から数量の変化に着目させたり、図や式などを用いて話し合ったりする活動、つぶやきを大切にされたノート指導）を今年度も継続して行っている成果が見られ、「数と計算」・「図形」・「データの活用」において、全国値を上回る結果が見られました。

しかし、「変化と関係」の領域では、二つの数量の関係に着目し、速さなど単位量当たりの意味および表し方についての理解が、十分に定着していませんでした。

これらのことから、本校の算数においては、これまでの指導を継続していくとともに、「変化と関係」の領域では基礎・基本の定着に重点をおいていきます。さらに、各々の児童がいま身に付けている力をさらに高めるために、日常生活に当てはまるような問題を取り入れながら、日常生活において活用できる知識・技能が習得できる取り組みを行っていきます。

## 2 児童質問調査の結果の傾向

※肯定的な回答をしたとは、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」のどちらかを回答すること。

### 《学習および生活環境について》

質問9	「自分には、よいところがあると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問10	「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや下回っていました。
質問11	「将来の夢や目標を持っていますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問13	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや下回っていました。

質問 1 6	「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや下回っていました。
質問 2 5	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問 3 5	「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問 3 6	「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問 3 7	「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。

### 《教科・学習について》

質問 4 2	「国語の勉強は好きですか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を上回っていました。
質問 4 4	「国語の授業の内容はよく分かりますか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値をやや上回っていました。
質問 4 8	「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問 5 0	「算数の勉強は好きですか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問 5 2	「算数の授業の内容はよく分かりますか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。
質問 5 4	「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の項目で肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を下回っていました。

## 3 今後の取り組み

今回の児童質問調査の結果を受けて、本校では、児童が自己肯定感を高めるとともに、学校に来ることが楽しいと思える学校づくりに、よりいっそう励んでいかなければならないことがわかりました。

そのために、日々行われる授業をわかりやすいものとするとともに、児童が主体的に学習に取り組めるような授業づくりを進めていかなければなりません。また、各教科の持つ有用性を実感できる授業、身近な問題解決の場面を通して知識をさらに深めることができるような授業、自分の気づきや考えを書いたり話したりするとともに、意見を聴き合って自らの考え方を再検討していくような協働的な授業を、積極的に行っていきます。さらに、学級での学習の土台となる人権教育を充実させ、自他ともに価値ある存在として尊重し合うことができる児童の育成に努めていきます。

本校では、一人ひとりの児童が自分の良さや可能性を認識するとともに、他者と協働して課題を解決するような取り組みを通じて、児童のさらなる成長を支援していきます。今後とも、児童の自立と幅広い学習の機会をつくるために、ご協力をお願いいたします。